

第3学年 国語科学習指導案

い組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名

指導者 辻 美 咲

1 単 元 読んで、かんじたことを発表しよう（教材「もうすぐ雨に」 光村 3 年上）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第2学年の「お話を読んで、かんそうを書こう」の学習で、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えを伝える能力を身に付けている。また、第3学年の「場面のようすを思いうかべ、音読しよう」の学習では、物語の場面の様子に合わせて音読の工夫を考え、進んで表現しようとする態度を身に付けている。さらに、物語の中で起こる出来事を自分に重ねて考えたり、読んで感じたことを友達と伝え合ったりしたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、登場人物の会話や行動を表す言葉に着目して、登場人物の気持ちを自分の経験と関係付けたり、友だちの考えと比べたりしながら感想を発表する活動を通して、場面と場面を比較したり関係付けたりしながら叙述を基に捉える能力や、行動、気持ちを表す語句を豊かにし、物語を読んで感じたことについて自分の思いや考えにふさわしい言葉を選んで伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「読んで、かんじたことを発表しよう」（教材「もうすぐ雨に」）を設定した。

この学習は、場面の移り変わりに即して登場人物の行動や気持ちの変化を読んで、考えたことを話し合う「読んで考えたことを話し合おう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「もうすぐ雨に」は、さまざまな動物との関わりや不思議な出来事を通して、「ぼく」の優しさや相手の気持ちが分かるようになる成長の姿を描いた物語文であり、交友関係が広がり、自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを考えながら行動しようとするこの期の子どもたちに適した教材である。また、物語の組み立てが「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」の起承転結で構成されており、場面の移り変わりに注意しながら「ぼく」の行動を基に気持ちの変化を考えることができる。さらに、不思議な出来事が繰り返し起こったり、出来事が起こる前後で「ぼく」の気持ちが変わったりすることについて、互いの感想を交流することができ、自分の思いや考えにふさわしい言葉を選んで伝え合うのに適した教材である。

そこで、本単元では、不思議な出来事が起こる本を選んで「おもしろいな」「すきだな」というところを自分なりに捉えさせるために、出来事の展開(起承転結)を通して変化していく登場人物の行動や気持ちなどを動物たちの会話や行動から想像しながら読み進めさせる。その際、「ぼく」の行動や気持ちから感じたことを発表することを単元の言語活動として設定する。その上で、物語のよさを感じ取り、自分の思いや考えを友達に伝えるためには、「もうすぐ雨に」をどのように読めばよいかという課題意識をもたせて教材文を読ませることが大切である。

具体的には、まず、不思議な出来事が起こる本を読んで試し作りを行い、感想を発表させ、うまくできたことや困ったことを友達同士で交流しながら整理させ、物語の読み方や感想の発表についての課題意識をもたせる。

次に、「もうすぐ雨に」を読んで、「ぼく」の行動や会話に着目しながら、出来事の展開や「ぼく」の気持ちの変化を読み取らせる。その際、自分に同じような出来事が起こったらどうするだろうという視点で、「ぼく」の行動や気持ちに寄り添い、感じたことを発表させる。

さらに、並行読書した本について、まとめた感想を交流する活動を行い、発表を聞き合いながら、行動や気持ちを表す語句の量が増えたことに気付かせ、達成感・成就感を味わわせる。

これらの学習を通して、行動や会話と気持ちのつながりを理解するとともに、場面の様子や登場人物の行動や気持ちを、叙述をもとに、既習事項や自分の経験と結び付け表現する力を高め、感想を表す言葉を意識しながら思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付けることにつながる。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味・関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想(すごいな、面白いなど思ったこと)(複数回答)	
・ チリンと鳴ってしゃべるのが気になる。びっくり。おもしろかった。うらやましい。(18)	
・ 話せることがすごい。(4)	・ なぜ、チリンと言う音なのか。(2)
・ 動物と話してみたい。(2)	・ その他(内容に関すること、意味が分からない等)(3)
② 不思議な出来事について(複数回答)	
・ 動物たちの声が聞こえるようになったのか(20)	
・ なぜ、チリンという音にしたのか(4)	
・ その他(動物たちに対する疑問)	
③ 出来事が起こる前後の変化について	
・ 動物の声が聞こえる(聞こえない)ことだととらえている。(27)	
・ 天気が晴れから雨になったことだととらえている。(4)	
・ 分からない(3)	
④ 言語活動「不思議な出来事が起こる本の感想、発表」について	
・ 不思議な出来事が起こる本を読んだ経験 ある(15) ない(19)	・ 本を読んだ感想を発表することへの興味(複数回答) 発表したい(28) 聞きたい(32)
⑤ 難語句(複数回答)	
・ かすめて ・ せかせか ・ ちんまり ・ ひっきりなし ・ 低空飛行 ・ のきうら	

多くの子どもたちが、主人公「ぼく」に起こった動物の声が聞こえるという不思議な出来事に興味を持ち、自分と「ぼく」を重ね、体験してみたいと思っていることが分かる。また、チリンという音の響きにも興味をもっている。しかし、その出来事が起こったきっかけや変化していく「ぼく」の気持ちを捉えている子どもは少ない。(①②)これは、物語を読むときに、場面ごとの「ぼく」の行動に目を向ける意識が強く、物語の場面ごとのつながりやそれによって起こる登場人物の気持ちの変化まで目を向けることができないからだと考えられる。また、出来事が起こる前後の変化について、多くの子どもたちは、「ぼく」が動物たちの声を聞けるようになったことに着目しているが、「ぼく」の気持ちの変化に気付いている子どもは少ない。(③)これは、叙述に基づいて物語の展開をとらえることができるのは、登場人物の行動や気持ちの変化に注意しながら読む経験が少ないからだと考えられる。本単元の言語活動である「不思議な出来事が起こる本の感想の発表」について、半数以上の子どもは不思議な物語が起こる本を読んだ経験がない。しかし、本を読んで感想を伝えることや友達の感想を聞きたいと答える意欲的な子どもが多く、書くことや交流することへの意欲が感じられる。(④)難語句については、物の様子を表す言葉や、日常生活ではなじみのない物や場所を表す語句が挙げられている。(⑤)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちが試しの発表から課題を見だし、登場人物の会話や行動に着目して、気持ちの変化を捉えることができるように、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考ええる。

ア 単元・教材への興味・関心を高めさせるために、不思議な出来事が起こる物語の読書経験を交流させ、教師のブックトークを聞いて感想を交流させたりする。また、題名から感じたことを交流させ、物語の展開を予想させる。

イ 各場面における「ぼく」の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えさせるために、物語を「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」に分けて組み立てを理解させたり、不思議な出来事が起こったときの「ぼく」の行動や気持ちが表れているところを書き出させたりしながら、各場面のぼくの気持ちを考えさせる。

ウ 自分の学習を振り返らせ、今後の読みへとつなげるために、試し作りの感想と見直しの感想を比較させたり、友だちと交流させたりすることで、自分の学習の成果に気付かせる。また、本単元で身に付けた国語の能力が今後の学習や日常生活でどのように生かされるか話し合わせる。

3 目 標

- (1) 行動や気持ちを表す語句の量を増やし、自分の感想を表す言葉に生かすことができる。
- (2) ・ 場面と場面を比較したり、登場人物の行動を自分の行動と関係付けたりして、登場人物の気持ちを想像することができる。
・ 登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に読み取ることができる。
- (3) 不思議な出来事が起こる本を読み、登場人物の行動や会話を基に感じたことを伝えようとすることができる。

4 指導計画（全8時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	不思議な出来事が起こる物語をこれから読んでいくんだな。 もし、自分が動物と話すことができたなら、△△を聞いてみたい。	1～2 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し ・ 不思議な出来事が起こる物語の読書経験について交流したり、教師のブックトークを聞いたりする。 ・ 教師が読んだ物語について、試し作りを行う。 ・ 自分が動物と会話ができれば、どんなことを話したいか交流する。	○ 単元や教材への興味・関心を高めさせるために、不思議な出来事が起こる物語のブックトークをしたり、題名を見て疑問に思ったことを交流させたりする。 ○ 言語活動についての課題意識をもたせるために、教師が読んだ物語について、感想のモデルを提示した上で試し作りをさせ、できたことやできなかったことを発表させて、一人一人の課題を明確にさせる。
しらべる③	不思議な出来事が起こる物語を読んで、感じたことを発表するには、どんなことに気を付けて読めばよいかな。	3～5 限定された場面での試行錯誤 ○ なぜ、「ぼく」はだれとも目を合わせないようにしたのだろうか。（本時） ○ なぜ、「ぼく」は「やっぱり」と思ったのだろうか。 ○ なぜ、「ぼく」はトラノスケの言いたいことがよく分かったのだろうか。	○ 「ぼく」が動物の声を聞いたきっかけや、その出来事が物語の中でどんな役割をしているかを考えさせるために、9つの場面を「始まり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」の組み立てで分けさせ、「ぼく」の行動と動物たちの行動や会話を関係付けながら展開をとらえさせる。
ふかめる①	どんな出来事が起こるのかな。きっかけは何か。	6 試行（試し作り）の見直し 『もうすぐ雨に』を読んで、感じたことを発表しよう。 ・ 読んで感じたことを発表する。 ・ 試し作りと見直しを比較したり、友達と交流したりして、自己の変容を確かめる。	○ 「ぼく」が動物と話ができるようになる前後の気持ちの変化を読み取らせるために、「ぼく」の行動や会話に着目した課題を設定し、叙述を基に想像して考えた「ぼく」の気持ちを話し合わせる。
ふりかえる①	その出来事は、物語の中で、どんな役割をしているのかな。 出来事の前で○○が変わっているよ。	7 広い場面での試行錯誤 「物語を読んで、感じたことを伝え合おう。」 ・ 好きな物語を選び、感じたことを発表する。 ・ 試し作りと見直しの比較をしたり、友達と交流したりする。 ・ 物語を読んで、感じたことをまとめる。	○ 物語の始まりと結びでは、「ぼく」の気持ちが変わっていることを捉えさせるために、トラノスケがどんな言葉を言っていたか思い浮かべさせ想像させる。
いかす①	他の物語でも出来事の役割や出来事の前後を読んでみよう。	出来事が物語の中でどんな役割をしているか考えたり、出来事の前後で何が変わったかを考えたりしながら読めばよい。 8 活用場面の想起 ・ 他の物語を読んで感じたことを交流する。	○ 読んで感じたことを発表するには、何が大切なのかを考えさせるために、試し作りと見直しを比較させ、子どもたち自身で気付くことができるようする。 ○ 教材文で学んだ力を表現したり、活用したりして、自己の変容を実感できるように、並行読書を実施する。

5 本 時 (3 / 8)

(1) 目 標

「ぼく」がだれとも目を合わせないようにした理由を話し合う活動を通して、「ぼく」の気持ちを表す会話や行動に気づき、「ぼく」の怖がる気持ちの変化を捉え、感じたことを発表しようとすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

「ぼく」が動物の声を聞いたときの気持ちの変化に気付かせるために、日常生活で誰かと目を合わせないようにした経験を発表させたり、つばめやからすの声を聞いた時の「ぼく」の気持ちを話し合わせたりする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかみ・みとす	1 本時の学習課題を設定する。 行動からぼくの気持ちを読み取りたい。 だれとも目を合わせないで、かけていったところじゃないかな。 目を合わせないのは、悪いことをした時や不気味な時だ。「ぼく」はどんな気持ちかな。	(分)	○ 行動や会話から気持ちを想像していく学習課題を意識させるために、「事件が起きた時、ぼくの行動で1番気持ちが表れているところはどこだろう」と問い、学習範囲を確認する。
	なぜ、「ぼく」はもうなるべくだれとも目を合わせないようにして学校までかけていったのだろうか。 2 「ぼく」が考えたことやそのときの気持ちを想像する。 声が聞こえてきて、怖かったからだと思う。 「——いったいどうなっているんだろう。」 つばめが話していることを聞いて怖さを感じている。【つばめとの関わり】 共通点: 動物との会話 差異点: 恐怖の度合い 「つばさをはばたかせた。ぼくはあわててかけだした。」 その後から、ぼくも「いってきます」とさけんで、飛び出した。 共通点: 動物との会話 差異点: 恐怖の度合い からすの行動には、びっくりしている。【からすとの関わり】 いつもと同じだから、怖がっていない。【トラノスケとの関わり】 はじめから、怖がっていたわけじゃないね。 トラノスケやからすとつばめの声をきいたときでは、「ぼく」の気持ちが違うよ。 はじめはあまり気にしていなかったのに、だんだんこわくなっているよ。	7	○ 「ぼく」の気持ちの変化について、課題意識をもたせるために、「目を合わせないときは、どんなときで、どんな気持ちかな。」と問い、自他の経験を交流させながら「ぼく」の気持ちについて話し合わせる。 ○ つばめの会話を聞いた時の「ぼく」の複雑な心情を捉えさせるために、「もうなるべくだれともとはどういう様子だろう」と問い、言葉に着目させながら、ぼくの初めて出会った出来事についての得体の知れない恐怖について話し合わせる。
しらべる・ふかめる	共通点: 動物との会話 差異点: 恐怖の度合い 「つばさをはばたかせた。ぼくはあわててかけだした。」 その後から、ぼくも「いってきます」とさけんで、飛び出した。 共通点: 動物との会話 差異点: 恐怖の度合い からすの行動には、びっくりしている。【からすとの関わり】 いつもと同じだから、怖がっていない。【トラノスケとの関わり】 はじめから、怖がっていたわけじゃないね。 トラノスケやからすとつばめの声をきいたときでは、「ぼく」の気持ちが違うよ。 はじめはあまり気にしていなかったのに、だんだんこわくなっているよ。	28	○ からすの会話や行動に、驚いたことに気付かせるために、「からすはどのようにつばさをはばたかせたのかな」と問い、様子を動作化させたあと、ぼくの気持ちを話し合わせる。 ○ 「ぼく」がはじめは声が聞こえることを深く考えていなかったことに気付かせるために「トラノスケの声を聞いた時も怖がっていたのかな。」と問い、トラノスケの声を聞いた時のぼくの行動に着目させる。 ○ 「ぼく」の怖さの度合いの変化に気付かせるために、「なぜ、つばめの声を聞いた時だけ誰とも目を合わせないようにしたのかな。」と問い、からすの声を聞いた時の「ぼく」の行動に着目させる。
	3 学習のまとめを行う。 自分のまわりに起こっている不思議な出来事に気づきこわくなったから。 4 本時の学習を振り返り、自分や友達のかかったところを話し合う。 トラノスケやつばめの声を聞いた時のぼくの行動を比べることで、「ぼく」の気持ちの変化が分かったよ。	10	○ 「ぼく」の不思議な出来事に対する気持ちの変化をとらえさせるために、「トラノスケ、からす、つばめのときの「ぼく」の気持ちはどのように変化したかな」と問い、「ぼく」の動物に対する接し方について話し合わせる。 ○ 学び合いのよさを実感させるために、友達との交流を通して新たに発見したり、自分の変容に気付いたりしたことを振り返らせる。
ふりかえる・いかす			

